



今月のテーマ

たいじょうほうしん 帯状疱疹

【どんな病気なの?】

体の片側の一部にピリピリした痛みがあらわれ、その部分に赤い発疹が出てきます。痛みは徐々に増していき、夜も眠れないほど激しい場合もあります。症状の多くは上半身にあらわれますが、顔や目、頭などにあらわれることもあります。



【原因】

加齢などによる免疫力の低下が発症の原因です！
初感染ではみずぼうそうとして発症し、その後、神経節に潜伏していた水痘・帯状疱疹ウイルスが、再活性化を受けて神経軸索を下降し、その神経支配領域の疼痛を引き起こしたり、皮膚に水疱や紅斑を生じる疾患です。疲労やストレスなども発症のきっかけになります。また、糖尿病やがんなどの免疫力が低下する病気が原因になることもあります。

発症のメカニズム

帯状疱疹は、多くの人が子供のときに感染する水ぼうそうのウイルスが原因で起こります。

日本人の成人の約90%以上の方が帯状疱疹の原因となるウイルスが体内に潜伏していて、過労やストレスなどで免疫力が低下したときにウイルスが再び活性化して発症する可能性があると言われています。



主な合併症

50歳以上で帯状疱疹を発症した人のうち5人に1人がPHN※を発症します。

PHNの痛みは、「刺すような痛み」や「焼けるような痛み」と表現され、数年にわたって痛みが改善されないこともあります。また、頭部から顔面に症状が出ることもあり、目や耳の神経が障害されると、めまいや耳鳴りといった合併症がみられることもあります。

※神経が損傷されることで、皮膚の症状が治った後も、痛みが残ることがあり、3か月以上痛みが続くものを帯状疱疹後神経痛(PHN)とよびます。

予防

帯状疱疹を予防するワクチンは2種類あります。

テレビなどで紹介している帯状疱疹ワクチンは、2ヵ月あけて2回筋肉注射をします。この帯状疱疹ワクチン(シングリックス筋注用)の予防効果は90%以上という結果が実証されています。



治療

抗ウイルス薬(アシクロビル)などによる治療を行います。発症早期に治療開始するほど効果が期待できますので、症状を自覚したら早めに受診をお願いいたします。

帯状疱疹になりにくい体づくり

食事のバランスに気をつける、睡眠をきちんととるなどの規則正しい生活習慣、適度に体を動かすことなどが大切です。

ほかにはこんな病気も

たんじゅうへるべす 単純ヘルペス

【どんな病気なの?】

単純ヘルペスウイルスによる感染症ですが、9割は自覚症状のない不顕性感染である一方で発熱や皮膚粘膜の水疱、口内炎などのびらん、リンパ節腫脹など比較的激しい症状がおこります。ストレスや疲労などで免疫が低下したところにウイルスが活性化し、場合によっては頻繁に再発します。



治療

皮膚が赤く、痛みのある疾患

再発性の場合、アシクロビルなどの抗ヘルペスウイルス薬の内服をなるべく発症早期(48時間以内)開始します。ごく軽症の場合は抗ヘルペスウイルス薬の外用(塗り薬)を選択することもあります。近年、年に3回以上など頻回に再発する場合には、予め処方しておき、発症後6時間以内に患者さんの判断で内服治療する方法が保険適応になり、QOLの向上に貢献しています。

年に一度は健診を受けましょう!

健康診断

自分のため、家族のために
早期発見!



Instagram
@KAGAWA_CLINIC
フォローをお願いします!



医療法人社団 清明会
かがわクリニック

☎ 0790-43-8887

〒675-2322 兵庫県加西市北条町西高室595-11

当院の情報は

ホームページからご覧いただけます。

かがわクリニック

検索



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	休診
15:00~18:00	○	○	×	○	○	×	休診